



朝日中 HP QRコード

全国学力・学習状況調査結果の報告

本年度、3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査（4月18日実施）の結果が返ってきました（すでに個人票は生徒に配付されています）。これを分析し、本校生徒の強みと弱みを検証しましたので報告します。なお、この調査で本校生徒の学力のすべてが測定できるものとは考えておりません。また、この結果が、通知表等の成績に加味されることはありません。

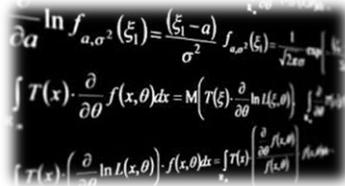


＜各教科正答率＞

	国語（平均正答率）	数学（平均正答率）	英語（平均正答率）
本校	79.0	64.0	62.0
三重県	68.7	51.3	45.0
全国	69.8	51.0	45.6

全ての教科について、平均正答数・平均正答率が全国・県平均を上回っています。基礎基本について十分な定着が図られ、応用問題についても解決する能力が高いと考えられます。また、各教科において無回答も少なく、最後まで粘り強く問題に取り組んでいる朝日っ子の姿が伺えます。

□国語に関しては、ほとんどの領域で、平均正答数・平均正答率が全国平均・県平均を上回っています。特に、「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる」「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」等においては、思考力・判断力・表現力を問う問題での学力の定着が結果として現れ、その中でも特に、読むことの領域については、すべての問題で全国平均を10ポイント以上上回る結果となりました。無解答の割合については、15問中すべて（うち無解答なし8問）で全国・県平均を下回っています。記述式の問題においても、4問全てが全国・県平均を上回っています。



□数学に関しても、多くの領域で、平均正答数・平均正答率が全国平均・県平均を上回っています。特に、「図形」「関数」「データの活用」においては、10ポイント以上上回っています。無解答の割合も15問中すべて（うち無解答なし3問）が低く、記述式の問題においても、5問中5問とも全国・県平均を上回り最後まであきらめず問題に向かおうとしている姿勢が感じ取れます。さらに「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」や「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」では20ポイント以上上回っており、記述式問題への対応力の定着が伺えます。

□本年度実施された英語についても、17問中全てで平均正答数・平均正答率が全国平均・県平均を上回っており、その中で実に15問が10ポイント以上上回っています。しかし、「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる」や「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」等の記述式の問題においては、全国・県平均を上回っているものの、正答率が低くなっています。

無回答の割合は17問中全て（うち無回答なし12問）で全国・県平均を下回っています。

また、「話すこと」については、5問中全問で全国平均の正答率を上回っており、無回答率もすべてにおいて下回っています。



<学習状況についての特徴的な強みと弱み>

<国語> ◎読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる (全国+19.2)

◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる (全国+16.6)

◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる (全国+27.2)

▽意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる (全国-3.4)

▽文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる (全国-3.2)

<数学> ◎ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる (全国+26.5)

◎条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる (全国+14.9)

▽累積度数の意味を理解しているかどうかをみる (全国-3.5)

<英語> ◎「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる (全国+22.2)

◎文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる (全国+19.2)

※「話すこと」◎日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身につけているかどうかを見る (全国+11.7)

◎日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べあう事ができるかどうかを見る (全国+21.8)



<学校質問紙についての特徴的な状況>

本年度も、生徒たちが失敗を恐れず、協働し課題解決に向かえる授業を展開しながら「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の実現に向けた授業づくりに力を入れています。結果、対象生徒が「1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか(全国+10.7)」という項目や「国語の授業の内容はよくわかりますか(全国+(8.3)「数学の授業の内容はよくわかりますか(全国+18.2)」、「英語の授業の内容はよくわかりますか(全国+(13.2)」等、各教科の学習面においては特に、全国平均より高い数値として表れています。

また、英語においては記述式の問題の平均正答率も全国平均を大幅に上回っていたものの、生徒質問紙の「英語で自分の考えを書いたりする活動が行われていたと思いますか?」では(全国平均+0.4)と、結果と生徒の意識とに差があることもわかりました。

<学校での取組の成果について>

「ねらいの提示」と「振り返り活動」を全教科で統一して実施し、教師、生徒の意識を共に高め、1時間の授業の中で何を行っているのかを明確にしながら授業改善を行ってきました。特に「振り返り活動」においては、個人用タブレット等のICT機器を効果的に活用する授業を計画的に行い、今後も引き続き、生徒の学習意欲・学力向上に努めていきたいと考えています。また、少人数を対象としたきめ細やかな授業の中で、生徒間での教え合いや聞き合い、学び合いが促進され、机間指導(支援)でのアドバイスや声かけなどもより丁寧なものになりました。今後も授業の中で「思考を深める時間」【朝日タイム】を取り入れながら、小グループでの話し合い活動を授業の中で効果的に組み入れることで、生徒間の言語活動が促進され、各生徒のコミュニケーション能力を高めるとともに、生徒一人あたりの活動量を増やししながら、基礎・基本の徹底や応用力を伸ばしていきたいと考えています。

<生徒の学びの充実を図るための今後の取組について>

今回の調査の中の生徒質問紙の回答で唯一気になった「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(全国-2.0)」という項目について、学校として大きな課題として受け止めています。「いじめの定義」をもう一度確認し、限定解釈してしまわぬよう、細心の注意を払って取り組んでいくとともに、「未然防止」「早期発見」「早期対応」を心がけながらの対応をして参りたいと思います。また、道徳科のみならず、教育活動全般において人権教育を根幹に据えながら、子どもたちの心の発達に力を注いでいきたいと考えています。脱コロナとなった本年度からは、自然教室や職業体験をはじめとする様々な体験活動の再開だけでなく、地域と連携した取り組みについても積極的に取り入れながら、新しいスタイルの教育活動を進めてまいりたいと考えています。今後も、皆さまからの意見をいただき、地域ぐるみでの子育ての意識を大切にしながら、保護者や地域の方とともに子どもたちにとって居心地のよい学校づくりを進めて参りたいと思います。